

VII. 共同利用研究

1. 概要

平成 25 年度の共同利用研究の研究課題は以下の 5 つのカテゴリーで実施されている。

- A 計画研究
- B 一般個人研究
- C 一般グループ研究
- D 震災関連募集研究
- E 随時募集研究

共同利用研究は、昭和 57 年度に「計画研究」と「自由研究」の 2 つの研究課題で実施され、昭和 62 年度からは「資料提供」(平成 14 年度から「施設利用」と名称を変更、さらに平成 20 年度から「随時募集研究」と名称を変更)を、平成 6 年度からは「所外供給」(平成 14 年度から「所外貸与」と名称を変更し、平成 15 年度で終了)が実施された。さらに平成 23 年度からは「自由研究」を「一般個人研究」と「一般グループ研究」に区分して実施されている。それぞれの研究課題の概略は以下のとおりである。

「計画研究」は、本研究所推進者の企画に基づいて共同利用研究者を公募するもので、個々の「計画研究」は 2~3 年の期間内に終了し、成果をまとめ、公表を行う。

「一般個人研究」および「一般グループ研究」は、「計画研究」に該当しないプロジェクトで、応募者(研究所外の複数の研究室からの共同提案によるものは一般グループ研究)の自由な着想と計画に基づき、所内対応者の協力を得て、継続期間 3 年を目処に共同研究を実施する。

「随時募集研究」は、資料(体液、臓器、筋肉、毛皮、歯牙・骨格、排泄物等)を提供して行われる共同研究である。

なお、平成 22 年度から、霊長類研究所は従来の全国共同利用の附置研究所から「共同利用・共同研究拠点」となり、これに伴い、共同利用・共同研究も拠点事業として進められることとなった。

加えて、東北地方太平洋沖地震および関連事象により研究等の継続が困難になった方を対象に、震災関連募集枠も臨時に設定した。

平成 25 年度の計画課題、応募並びに採択状況は以下のとおりである。

(1) 計画課題

1. 各種霊長類における認知・生理・形態の発達と加齢に関する総合的研究

実施予定年度平成 24 年度~26 年度

課題推進者：友永雅己、濱田譲、鈴木樹里、林美里、足立幾磨、平崎鋭矢、松沢哲郎

新生児期、乳幼児期、思春期、壮年期、老年期、など各発達段階における認知機能や生理機能および形態についてチンパンジーなどの類人猿、マカク類などの旧世界ザル、およびフサオマキザルなどの新世界ザルなどを対象に、総合的な比較研究を推進する。

2. 霊長類脳科学の新しい展開とゲノム科学との融合

実施予定年度平成 25 年度~27 年度

課題推進者：高田昌彦、中村克樹、大石高生、宮地重弘、平井啓久、今井啓雄

ヒトに近縁の霊長類を用いた脳科学研究は高次脳機能や精神・神経疾患病態の解明に極めて有用である。本計画研究では、特に脳科学とゲノム科学との融合を目指して、革新的サルモデルや先端的研究手法による次世代の研究を展開する。

(2) 応募並びに採択状況

平成 25 年度はこれらの研究課題について、129 件(340 名)の応募があり、共同利用実行委員会(半谷吾郎、正高信男、大石高生、林美里、毛利俊雄、岡本宗裕)において採択原案を作成し、共同利用専門委員会(平成 25 年 2 月 25 日)の審議・決定を経て、拠点運営協議会(平成 25 年 3 月 11 日)で了承された。

その結果、129 件(340 名)が採択された。

各課題についての応募・採択状況は以下のとおりである。

課 題	応 募		採 択	
計画研究 1	7 件	(24 名)	7 件	(24 名)
計画研究 2	8 件	(24 名)	8 件	(24 名)
一般個人研究	79 件	(155 名)	79 件	(155 名)
一般グループ研究	4 件	(24 名)	4 件	(24 名)
随時募集研究	29 件	(99 名)	29 件	(99 名)
震災関連	2 件	(14 名)	2 件	(14 名)
合 計	129 件	(340 名)	129 件	(340 名)